

## 琉球処分とは何か

琉球を正式に日本領とした「琉球処分」の背景には何があったのだろうか。

### ●支配ではなかった冊封

鹿児島県の奄美地方や沖縄県を中心とした南島地域の  
人々の主な先祖は、縄文時代に九州からわたっていった  
人たちです。遺伝子的には中国大陸の人々と大きく異なり、  
日本語の方言の一つである琉球方言が使われています。

この地域では11世紀ごろ、農耕社会に移行しました。  
各地には按司といわれる首長が生まれ、城（グスク）を  
構えて相争いました。やがて北山（今帰仁）、中山（浦添）、  
南山（糸満）の3人の王が対立するようになります。15  
世紀前半には中山王の尚氏が3つの国を統一しました。  
これが琉球王国です。

琉球王国は明、清から冊封を受け、形式的には服属関係に  
ありましたが、実質的な支配を受けているわけでは  
ありませんでした。朝鮮、ベトナム、ビルマ、さらには  
オランダも一時冊封を受けていましたが、支配されてい  
たわけではありません。朝貢貿易をするためには、こう  
する必要があったのです。

徳川家康から琉球出兵の許しをもらった薩摩藩は  
1609（慶長14）年、琉球に軍を派遣し首里城を占領し  
ました。尚寧王は連行され、駿府城で家康に、江戸城で  
將軍秀忠に謁見しました。薩摩藩は琉球全土の検地を行  
うなどして支配体制を固めました。

### ●一種の「奴隷解放」だった琉球処分

清国との冊封関係を終わらせたのが、1879（明治

12）年、琉球を正式に日本領とした琉球処分でした。沖  
縄学の父といわれる伊波普猷は「琉球処分は一種の奴隷  
解放だ」と表現しました。薩摩藩支配下の「一種の奴隷  
状態」から解放され、また琉球王国下の身分差別からも  
解放されて、沖縄の住民は日本国民となったからです。  
琉球王国の内部は、沖縄県として近代化していこうとす  
る日本派と清国の権威に頼ろうとする守旧派に分裂して  
いましたが、日清戦争で日本が勝利したことで、この対  
立は終わりをづけました。

明治政府は日清戦争後、沖縄の近代化に本格的に取り  
組み、行政組織を整え、土地の所有権を明確にするため  
の土地整理事業などを行いました。1909（明治42）年、  
沖縄県会が設置され、1912（明治45）年には沖縄県民  
も国政に参加できるようになりました。それでも県民の  
平均所得水準は低く、高等教育機関もない状態が長く続  
きました。



伊波普猷（1876～1947）著書に『沖縄歴史物語』『校訂  
おもろさうし』など。民俗学・歴史学・言語学を通して沖  
縄学の基礎を築きました。（那覇市歴史博物館蔵）